

平成29年度発達が気になる子の早期支援モデル事業の実施について

1歳6か月児健診からの

発達が気になる子の早期支援

～子ども・保健・福祉の連携 「あそびのひろば」を通じて～

I 早期支援モデル事業の目的

発達障がい児（者）への支援は、気になる段階での早期発見、支援が重要とされており、また、ライフステージに応じた切れ目ない支援が求められている。

保健福祉センターで実施する1歳6か月児健診でスクリーニングを実施し、特に発達が気になる子に対しては、言語や認知の発達などの素因、また、保護者に対しては子のかかわりなどの子の成長への影響の双方に注目して、広汎性発達障害や注意欠陥・多動性障害など社会におけるコミュニケーション等の課題につながる状態への早期の支援や心身ともに健康な生活をおくることのできるようにつなげていくことを目的とする。

【早期支援モデル事業の内容】

- ① 親子教室「あそびのひろば」及びカンファレンスの実施
- ② 事業展開のための検証

II 親子教室「あそびのひろば」の意義と概要

親子教室「あそびのひろば」では、1歳6か月児健診のスクリーニングにおいて気になる子の保護者に対し、安心して親子教室「あそびのひろば」に参加できるよう促していくとともに、親子教室のプログラムは、遊びを中心とした小規模集団活動を体験的に行うものとし、療育の必要性を見極め、療育が必要な子に対しては適切な支援の場につなげていく場とする。

1 子に対して

- ア 発達の確認
- イ 療育の見極め
- ウ 集団活動体験の機会

2 保護者に対して

ア 相談の場（ペアレントメンターの活用）

3 参加対象者

葵区4保健福祉センターにおける1歳6か月児健診で発達が気になる子とその保護者

4 親子教室「あそびのひろば」の概要

項目	内容
実施場所	城東保健福祉センター
実施回数	16回（8回×2クール） ・1クール目：6月～9月 対象健診月：4～5月 ・2クール目：10月～1月 対象健診月：8～9月
実施時間	9時から10時30分
定員	30～40組（各クール15組程度）
教室運営スタッフ	臨床発達心理士1人 保育士3人 音楽療法士2人 ペアレントメンター2人
プログラム	自由遊び、呼名、手遊び、音・リズム遊び、絵本読み聞かせ、 帰りの会、ペアレントメンター相談

発達が気になる子の支援の流れ



